

このガイドブックが生まれた理由

東日本大震災からもうすぐ丸6年を迎え、避難所から仮設住宅を経て、集団移転・復興公営住宅への転居が進んでいます。宮城県内では、被災地における地域コミュニティの存続や、新たな絆づくりが課題となるなか、昔ながらの文化・伝統を継承しつつ住民が交流する、つどい場や支え合い活動に着目したいと考えました。

そこで2016年度、宮城県山元町、町地域包括支援センター、町社会福祉協議会などの協力のもと「実行委員会」を立ち上げ、研修会を通じて、既にある地域の活動を住民とともに掘り起こし、紙面や発表会を通じて町内で共有する事業を行いました。

住民対象の「地域ふれあい支え合い研修会」は、ご近所福祉クリエイション主宰の酒井保さんを講師に招いて2回実施。町内23行政区ごとの住民活動をグループワークで明らかにしたのち、紙面に載せたい活動1つを地元住民の皆さんに選んでいただき、その活動が「健康づくり」「つながりづくり」「見守り活動」などにつながっているかを検討して意味づけし(アイコンを付して)、この裏面のマップにまとめました。さらに、2017年2月には住民自ら活動を発表し合う「地域ふれあい支え合い活動発表会」を開き、互いの活動を認めあうことで、より一層の地域コミュニティの維持や発展を目指します。

● 実行委員会の開催

2016年8月29日(月) 第1回実行委員会(山元町社協・山元町・CLC/委員15人・事務局2人)
2017年1月18日(水) 第2回実行委員会(山元町社協・山元町・CLC/委員15人・事務局2人)

● 地域ふれあい支え合い研修会

【第1回】 4ブロック別 10月4日(火)午前 中央公民館にて(対象地区:鷲足・山寺・浅生原・高瀬・合戦原)参加者15人
10月4日(火)午後 中央公民館にて(対象地区:笠野・花釜・牛橋・山下・つばめの杜西・つばめの杜東)参加者16人
10月5日(水)午前 坂元公民館にて(対象地区:真庭・久保間・中山・下郷・町・上平・磯・中浜)参加者27人
10月5日(水)午後 太平生活センターにて(対象地区:八手庭・横山・大平・小平)参加者12人



【第2回】 2ブロック別 12月5日(月)午前・午後 中央公民館にて 参加者合計56人

● 地域ふれあい支え合い活動発表会

2017年2月15日(水)午後 中央公民館にて

この事業では、教材としてDVDを制作しました。住民による多彩な活動とともに、自治体や地域包括支援センター、社会福祉協議会などの職員が地域を巡り、既存の住民の営みや、ちょっとした支え合い活動を発掘して歩く際の姿勢やヒントをお伝えする動画です。山元町の取り組みを、ぜひ各地で広く活かしていただければと思います。
(収録事例) ●山元健康麻雀愛好会(山元町) ●やました花いっぱい(山元町) ●つばめの杜なかよし会(山元町) ●牛橋地区(山元町) ●駒板おさんぽ会(福島県郡山市)
CLCのホームページから無料でご覧いただけます(<http://www.clc-japan.com/>)。

町内で注目の住民活動を紹介します!

健康麻雀で頭の体操、友だちの輪

◎町内全地区「山元健康麻雀愛好会」

坂元公民館で月2回、酒・煙草禁止でお金をかけない健康麻雀が、2年前から開かれています。会員は24人いますが、基本は自由参加で年会費1,000円。毎回みんなで準備をし、13時までに集まったメンバーでくじ引きをして組み合わせを決め、17時までたっぷり楽しみます。トーナメント制の麻雀大会も年2回開催。会長の岩佐哲也さんは、「頭と指先を使って楽しく集うことで、心身ともに健康で長生きになれば」と話します。

もともと坂元地区で行っていた麻雀の会が10年ほど前からありましたが、東日本大震災で会員がバラバラに離れて暮らすことになり活動を中断。その後、新しくできた住宅地を含む地域の交流を模索する中、試しに公民館の文化祭で健康麻雀コーナーを企画したところ大好評だったため会を発足。男性の参加が多く、かつての会員や隣町に引っ越した元住民なども交ざり気あいの輪が広がっています。対戦が終われば、趣味の園芸の話など情報交換の場に。「しばらく顔を見なくて心配した」という話が出たり、欠席者に電話をかけるなど気にかけています。



笑顔と花で、豊かな空間が広がる

◎山下地区「やました花いっぱい」

NTT仙台支店山下交換所東側の、3棟のビニールハウスが「やました花いっぱい」の活動拠点。会長の岩佐嘉さんを中心に、地区を花でいっぱいにしてみんなで交流しようと約20年前に発足。ピオラ、葉ボタン、マリーゴールドなどを種から育て、役場の花壇づくりや、花を植えたプランターの全戸配付、町内行事への出店などを行ってきました。約20人で活動し、年会費は1,000円。副会長の大友俊一さんの管理のもと、毎日3人ずつの当番制で、水やりなど花の世話をしています。一仕事終えたあとは、当番以外も集まり、ビニールハウス内でにぎやかにお茶飲み。テーブルやストーブ、冷蔵庫がそろい、大人の秘密基地のような空間です。

現在は、会員が70~80歳代となったため、負担にならないように今年度からは花壇の数を減らして出店を控え、みんなで集まるお茶飲みを活動の主眼に。花とともに、健康や生きがいも育まれています。



健康づくりは、友だちづくり

◎つばめの杜東地区「つばめの杜なかよし会」

町最大の集団移転地である「つばめの杜」の東集会所で、毎月第2・4木曜日の10時から開かれている「つばめの杜なかよし会」。世話人の田所まり子さんや伊藤よしみさんによる出欠確認と健康チェックのあと、同じく世話人の水本恵子さんがリーダーとなり、DVD教材を見ながらストレッチ体操やダンベル体操で1時間ほど体を動かします。「今日はおしゃれな格好してるね」「お餅を食べて太ったから痩せない」と和気あいの会話が飛び交います。「家で横になっていたら『今から来い』って電話がきたから来たよ」と話して皆を笑わせているのは、つばめの杜東自治会会長の庄司孝典さんです。体操後はテーブルを出し、漬け物やお菓子を並べてお茶タイム。町が全6回開いた健康教室をきっかけに、2016年12月に自主運営となり毎回20人前後が参加。月300円の会費は茶菓代に。当初30分程度だったお茶会は、いまでは1時間に延び、さらに帰り際も立ち話が続いて、会を休む人がいると互いに気にかけて合う関係が生まれてきています。



地元の6団体がつながって、住民交流が活発に

◎牛橋地区

被災して人口が210世帯に半減した牛橋地区では、行政区長の斎藤智博さんのリーダーシップのもと、牛橋区民会館を会場に次々とグループ活動が立ち上がり、住民の交流が活発になっています。2014年1月に住民の皆さんと月1回の地域サロン「華の会」(約30人)を立ち上げて以降、月2~3回小物づくりを楽しむ「ひまわりの会」(約15人)、週1回の「ダンベル教室」(18人)、月1回の「男の料理教室」(20人)、月1回高齢者が集う「喜楽サロン」(約10人)、野菜づくりを楽しむ「菜果好(なかよし)会」(16人)が発足。さらに2016年11月には、6団体合同の芋煮会が開かれ、約80人が集まって大盛況となりました。年末には、行政区役員や6団体のメンバーとともに、区民会館を大掃除したのち、餅つきをして振る舞うのが恒例に。「夏祭りのときは、お盆で帰省する子ども世帯なども加わって、もっとにぎやかになる。新旧の住民をたいせつにしたい」と斎藤さんは話します。

